

響都
月刊
September 2022



気を付けてね！ ホールでの過ごし方

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
9/3

Subscription Concert

第 957 回定期演奏会 C シリーズ

会場：東京芸術劇場コンサートホール

指揮／大野和士

ヴァイオリン／アリーナ・イブラギモヴァ

ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77 (約40分)

ブラームス：交響曲第2番 二長調 op.73 (約43分)

響都
東京都交響楽団

PROGRAM NOTES

避暑地で作られたブラームスの2つの傑作

本日のコンサートでは、ドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス（1833～1897）のヴァイオリン協奏曲と交響曲第2番が演奏されます。ブラームスの音楽というと、しっかりとした重厚感を持ち味ですが、この2曲はどちらも同じく「二長調」という明るい調性で作られた、伸びやかな作品です。両方とも1877～78年という近い時期に作られ、ブラームスがこよなく愛した自然の美しい避暑地で作曲されています。



ブラームス：ヴァイオリン協奏曲 二長調 op.77

ブラームスがこの曲を作ったのは、45歳（1878年）の時です。当時ブラームスは、音楽の都ウィーンに暮らしていましたが、夏になると湖と山々に囲まれたペルチャッハという美しい避暑地で過ごすことにしていました。友人への手紙の中で、「ここはたくさんのメロディが飛び交っていて、踏みつけないように気をつけなければなりません」と伝えるほど、ブラームスはペルチャッハの自然からエネルギーをもらっていたようです。このヴァイオリン協奏曲は、そんなペルチャッハ滞在中に書かれています。



ブラームスには大親友のヴァイオリニストがいました。ヨーゼフ・ヨアヒム（1831～1907）です。二人はお互いに尊敬し合い、音楽家としての絆を深めていました。ブラームスからの便りで、彼がヴァイオリン協奏曲の作曲を進めていることを知ったヨアヒムは、嬉しさのあまり居ても立ってもいられず、自分もペルチャッハへと向かいます。そしてヴァイオリニストの視点から、ブラームスにさまざまなアドバイスを贈りました。作品が完成すると、ヨアヒムのヴァイオリン独奏、ブラームスの指揮で、1879年1月1日に初演されました。

第1楽章は冒頭からオーケストラが第一主題を提示し、独奏ヴァイオリンがドラマティックに第二主題を奏で、緊張感を伴いながらオーケストラとの対話を展開します。**第2楽章**はオーボエのゆったりとしたメロディーで開始する三部形式、**第3楽章**は力強い曲想と華やかなヴァイオリン独奏で締めくくられます。

2つの曲が作曲されたペルチャッハの自然



ブラームス：交響曲第2番 二長調 op.73

交響曲第2番はヴァイオリン協奏曲の1年前（1877年6月）に、やはり避暑地ペルチャッハで作曲されました。ブラームスは生涯に4つの交響曲を作りましたが、64歳まで生きた大作曲家にしてはちょっと数が少ないほうです。なぜもっと多く作られなかったのかというと、ブラームスの大先輩にあたるベートーヴェンが、神がかった素晴らしい交響曲を9曲も残したので、それを超えるような作品は自分にはそう簡単に作れない……と、ブラームスは慎重になってしまったのです。最初の交響曲を生み出すまでにはなんと21年もの時間がかかり、43歳でようやく完成することができました。

第1番が書けたブラームスは、自信が付いたのでしょうか。続く第2番はその翌年、5ヶ月ほどでスピーディーに書き上げました。曲想も第1番とは正反対です。第1番は重々しくシリアスな雰囲気を含んでいます。第2番は穏やかで明るい曲想です。ある評論家は「聴く人の心に温かい日の光を注いでくれる」と褒め称えました。

穏やかに幕を開ける**第1楽章**はホルンや木管楽器のやわらかな主題、弦楽器によるロマンティックなメロディーが登場します。**第2楽章**は、チェロによる少し物悲しいメロディーに始まります。ほのぼのとした華やかさのある**第3楽章**は特に人気の高い楽章で、ウィーンの初演では繰り返して演奏されたそうです。**第4楽章**は活気に溢れ、元気いっぱい全体を締めくくります。弾けるように高らかに鳴る金管楽器の響きにも注目です。

文/飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

指揮 大野和士 Kazushi ONO



©Herbie Yamaguchi

都響およびブリュッセル・フィルハーモニックの音楽監督、新国立劇場オペラ芸術監督を務めている。トスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。これまでに、ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、モネ劇場（ベルギー王立歌劇場）音楽監督、フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者等を歴任。フランス批評家大賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス2017」を獲得。自身は2017年6月、フランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受章、リヨン市からリヨン市特別メダルを授与された。

今年11月には新国立劇場でオペラ『ボリス・ゴドゥノフ』（都響がオーケストラピットに入る）が予定されている。

ヴァイオリン アリーナ・イブラギモヴァ Alina Ibragimova



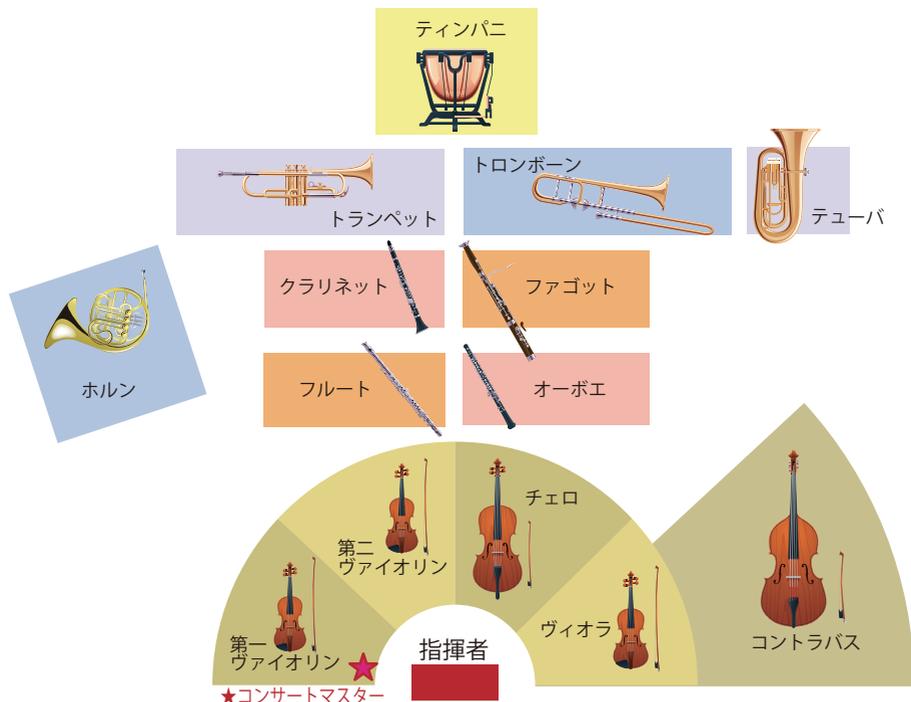
© Giorgia Bertazzi

バロック音楽から委嘱新作まで、ペリオド楽器（古楽器）とモダン楽器の両方で演奏するなど、その演奏の多彩さ、誠実さで高い評価を確立している。昨シーズンは、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団等と再共演の他、マラー室内管弦楽団とサンクトペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団にデビュー。最近はいエルン放送交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団などと、指揮者ではジョン・エリオット・ガーディナー、ダニエル・ハーディング等と共演。

ロイヤル・フィルハーモニック協会のヤング・アーティスト賞（2010）、ボルレッティ=ブイトーニ・トラスト賞（2008）等受賞多数。2016年、大英帝国勲章 MBE を授与された。

オーケストラ配置図（9月3日 第957回定期演奏会Cシリーズ）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してみてください。



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO 東京都交響楽団



東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。

都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術
劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、
交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』など
ゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、
病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、
「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。